



＼ 経済産業省「未来の教室」実証事業やEdTech導入補助金の好事例を配信するニュースレター /

未来の教室 通信

Standard

Vol. 23

GIGA スクール環境を活かして先生と生徒たちが EdTech を使って創る、「新しい学び方」のモデルをお届け！

Vol. 23

学年の枠を取り払い、自分だけの学びをデザインするカリキュラムへの改革

長野県
軽井沢高等学校



下井一志校長

日本有数の避暑地・別荘地として知られる長野県軽井沢町。

コロナ禍をきっかけに、ワーケーションや移住先としても人気が高まっています。そんな軽井沢町で唯一の公立高校である長野県軽井沢高等学校（以下、軽高）が、「学年の枠を取り払う普通科単位制への移行」という大胆な学校改革を打ち出しました。普通科単位制では、3年間の間に卒業までに定められた単位を修得すれば卒業を認められます。そのため、来年度から対象となる2・3年生が同じ授業を選択できたり、生徒自身が課題を設定し検証や発表をする「未来探究」という科目が週に6コマも選択できたりと、自らの興味・関心に応じた科目を学年の枠を超えて履修することが可能です。このように軽高では、主体性や思考力・判断力・表現力・自己効力感といった非認知能力の育成へと大きく舵を切ろうとしています。

町唯一の公立高校のため、多様な興味・関心や学力のバラツキに苦慮

軽高は各学年2クラス、3学年合わせても240人ほどの小規模校です。その校風について、下井一志校長は次のように語ります。

「長野県下ではどこよりも先駆けて英語科を設置したり、県立高校の普通科では初めてデュアル実習（年間を通しての職業体験プログラム）を始めたりと、革新的なことをやってきた学校です。

以前から総合的な学習の時間を使った

探究活動にも熱心で、1年生から3年生まで毎年、自分の探究テーマを決め、1年間かけて取り組んできました。例えばゲーム好きな生徒がゲームに関する研究をしたり、皆が自分の好きなことに打ちめるので、発表では原稿がなくても言葉が溢れるようになってくるんです。そうやって生徒たちがとことん自分の興味・関心を深掘りできる時間をもっと拡充できたらいいなという思いは常々持っていました。」（下井校長）

一方で、軽高の教員を悩ませていたのは、進路面での大きなバラツキでした。町にひとつしかない高校であり、卒業後の進路は4年制大学、専門学校、就職がそ

れぞれ3分の1ずつ。同じクラスの中で多様なニーズに合わせた授業をどう展開すれば良いのか、そのさじ加減が至難の業でした。

「特に小中学校時代に不登校の経験があったり、小学校高学年あたりから勉強についていけなくなってしまったりしている生徒は、『どうせ自分には無理』と勉強すること自体を諦めてしまう傾向があります。」（下井校長）

改革のきっかけは経済産業省の「未来の教室」での実証事業

なんとかして『自分にもできる』という自信を持たせてやれないだろうか。そん

「とことん自分の興味・関心を深掘りできる時間をもっと拡充できたらいいなという思いは常々持っていました」



軽井沢高等学校の様子



Inspire Highによる、オンラインキャリア教育

な悩みを抱えていた下井校長は、2019年度に同じ長野県の坂城高校で実施された経済産業省の「未来の教室」実証事業にとっても勇気づけられたといいます。

「坂城高校も進路面でバラツキが大きく、一斉授業という形態になじめない生徒の悩みを改善できずに現場が苦慮していました。それをICTの活用によって、生徒一人ひとりに合った方法で学習の生産性を上げ学習意欲を高めるとともに、ワクワクを核とした探究学習(PBL=Project Based Learning)でも成果を上げていました。坂城高校をロールモデルにすれば、生徒一人ひとりに学ぶ楽しさを知ってもらえるのではないかと。そんな思いで軽高も実証事業に手を挙げたのです。」(下井校長)

そのような経緯で、軽高でも2020年度に経済産業省の「未来の教室」実証事業が行われました。

その内容は、

① 無学年式デジタル学習教材「すらら」

を使った個別最適化学習

② 様々な教育ITプログラムを提供するLife is Tech!(ライフイズテック)による身近な社会課題解決の探究学習

③ オンライン学習プログラムInspire High(インスパイアハイ)によるキャリア教育

の3つの柱でした。

コロナ禍に見舞われ、休校が相次ぐなど大混乱の1年でしたが、軽高では当時の1年生と全教員がChromebookを持

軽高で行われた実証事業の3つの柱

① 個別最適化学習

使用教材 ▶ 無学年式デジタル学習教材「すらら」

英語・数学・国語の3教科で導入。生徒によるアンケート調査の結果、「よりわかるようになった」「一斉授業より自分のペースで進められるこの勉強法が自分に合っている」という回答が圧倒的に多かった。不登校傾向の生徒も毎日ログインしてしっかり勉強できていた。「ICTがあれば学校に来なくても来られない子の学習意欲に応えられるというのは大きな前進だと感じました。」(下井校長)



事業者名:株式会社すららネット
公式サイト:<https://surala.jp/>

② 身近な社会課題解決の探究学習

使用教材 ▶ ライフイズテック レッスン

1年生を対象に、地元企業で3日間終日就業体験を行った上で、その企業にヒアリングして課題を見つけ、解決のためのアイデアを考えてプレゼンするというカリキュラム。Life is Tech!の大学生メンターが相談相手になり、課題解決の企画をどう具体化するか、伝わるプレゼンをするために資料をどうつくると効果的か、などを端末を使って調べ、まとめて発表した。



事業者名:ライフイズテック株式会社
公式サイト:<https://lifeistech-lesson.jp/>

③ キャリア教育

使用教材 ▶ Inspire High

アーティストやビジネスリーダー、研究者など第一線を極めた大人たちから自分の世界を広げるインスピレーションを得る10代のためのオンライン学習プログラム。著名人のガイドが語る経歴や生き方を聞き、それに関するテーマに関して自分の考えや作品を発信し、ガイドや講師からフィードバックをもらう。

「あまり勉強が得意でない生徒が斬新なデザインの作品をつくらたり、鋭く深い視点を持っていたりすることが浮き彫りになり、これまではその生徒の一面しか見えていなかったことに気付かされました。」(下井校長)

事業者名:株式会社Inspire High
公式サイト:<https://www.inspirehigh.com/>

つようになり、ICT化が一気に加速しました。

「いずれも生徒が自然と主体的に取り組める内容だったことから、自信を持って堂々と自分の考えを発表できる生徒が増えました。特に②と③では答えのない問いに向き合い、『自分はこれでいいのだ』とありのままを認められる自己肯定感、『自分もやればできる』と思える自己効力感が高まる経験になったと思います。」(下井校長)

興味関心のない科目で時間割を埋めなければならないとか、勉強が遅れているのに、他の生徒と同じ授業を受けるしかない現状のままでは、生徒主体の学びは実現できない。授業の仕組みを見直せば、自分から「知りたい」「学びたい」と思える探究にもっと時間をかけられるはず。それこそが一人ひとりに最適化された、主体的な学びのスタイルではないか。

軽高の普通科単位制への学校改革は、

まさにこの実証事業が大きな弾みとなったのです。

普通科単位制への移行、どう進める？

普通科単位制では、学年の枠を取りはらい、自分の興味・関心に応じた科目を選択して、3年間で必要な単位数を取得できれば卒業が認められます。

文部科学省が定める必修単位数は74単位以上。軽高では今年度に入学者1年生から、これまで卒業要件にしていた90単位を74単位に減らし、2年目に最大20単位、3年目に最大24単位の合計44単位を自由選択科目とします。単位制の導入によって、**クラスや学年を超えて授業を受けることで教え合いや学び合いの輪がひろがり、学びをより深める**ことができると期待されています。

とりわけ、今回の単位制への移行でもっとも注目すべき点は、学校設定科目で



「未来」の授業でフランス語とフランスの文化を体験している様子

ある「未来探究」という時間が週に6コマも選択できることです。「未来探究」では時間割上まとまった時間が得られるので、**地域や企業、大学、ボランティア活動などと連携した学び**が実現可能となります。なお、探究に関わる学校設定科目の「未来」「未来探究」という学校設定科目の企画・運営については校長直下ではなく、進路学習係の一組織という位置付けで、計5名(主任1名+各学年から担当が1名ずつ+軽井沢町で雇用するコーディネーター)で構成されています。

具体的には次のページのような流れで進められます。▶詳細はP4

生徒主体への学びへ、実現のカギは？

最近では通信制高校の人气が高まっていることもあり、単位制というシステムそのものは特段目新しいものではありません。しかし、軽高のような**1学年80名程度の小規模校が単位制に切り替わる**というのは非常に珍しいケースだといえます。

中でも**ボトルネックになるのが「教員の数」**です。軽高は教員数が23名(令和4年度)。単位制の魅力は生徒一人ひとりが興味・関心に合った科目を自由に選択できることですが、教員数が足りないために十分な選択肢が用意できなくなれば本末転倒です。この点を軽高ではどのように解決したのでしょうか。

「単位制は学年の枠を取り払うので、2年生と3年生が同じ教室で学ぶ教科が多

単位制の導入によって、小規模校でもクラス・学年を超えた学び合いの輪が広がり、学びをより深めることができる



「未来」の授業でアナウンサーの仕事と技術について聞いている様子

普通科単位制の学びの流れ

1年生

必修科目をほぼ履修

・文部科学省が定めた高校での必修科目のうち、ほぼ全てを履修する。(地理総合と理科の基礎科目、保健体育を除く。教育課程表を参照)

▶詳細はP5

進路に応じた学習計画づくり

・進路や就職などについて考えるため、学校設定教科「軽高キャリアプログラム」▶詳細はP5の中で、「未来」という週2コマの学校設定科目を必修化。さらに進路ガイダンスや教員からの助言も参考にしながら、各自の興味・関心や希望する進路に応じて2～3年次の履修計画を立てる。



2年生

選択科目(最大20単位)を履修

・ビジネスや情報処理、デザインやスポーツといった、主に専門学科において開設される教科・科目からも選択可能

個別テーマを探究する「未来探究」を開始

・選択科目として設置する、学校設定教科「軽高キャリアプログラム」の中で、学校設定科目「未来探究」という授業を週6コマ選択可能。生徒一人ひとりが自ら課題を設定し、検証や発表を繰り返す。



3年生

未来探究や職業活動体験も履修可能に

・引き続き「軽高キャリアプログラム」の中で、「未来探究」が週6コマ選択可能 ▶詳細はP5
・「未来探究」に加えて、長野県内の普通科では初となる「デュアルシステム」という就業活動体験も選べる。年間15～20日間、同じ企業または施設で実習を行い、社会経験を積むことができる。

選択科目(最大24単位)を履修

・自身が設計した学びをさらに発展させていく



くなります。これまで**学年別だった授業を一度にまとめて行うので、教員の持ち時間自体は単位制に移行しても極端に増えることはありません。**

しかし、もちろんこれは机上の計算で、多様な生徒に応じた学びを保障するには、習熟度を考慮した授業の構成や、経済産業省の「未来の教室」実証事業で使った**無学年式のデジタル学習教材を取り入れる**など、更に踏み込んで検討する必要があります。」(下井校長)

マンパワーの点で特筆すべきは、**軽井沢町からの支援体制**です。校内には町の公設塾「軽井沢町学習センター」があり、3名の講師(軽井沢町の地域おこし協力隊)が常駐。さらに軽井沢町職員2名が、それぞれ魅力化推進員、社会教育士¹の資格を持つ魅力化コーディネーターとして加わり、地域と連携した企業実習や授業への橋渡し役などを担います。限られた人員と予算で改革を進めていくには、

学校外の人材が強い後押しとなっているのです。

「町が主催して『軽井沢高校魅力化推進協議会』という組織が立ち上がり、地域の経済関係者、教育の専門家らが集まって、『軽井沢高校でどんなことができる

のか』を教職員と意見交換しています。外部との連携に動いてくださったり、アイデアを提供していただいたり、皆さんとても協力的です。単位制への移行に関して県教育委員会からの理解も得られ、さらに今後は「軽高サポーター」という名で協力



有志の生徒が地域イベントに運営協力する様子

¹ 地域課題の解決など住民の学びを多様な主体と連携しながら支援する専門人材



就業体験の振り返りをする様子

してくれる地域の企業や大学、地元の方々や保護者を組織化し、探究の伴走者を増やしたいと考えています。このように軽高は地域に支えられているなど実感しています。生徒主体の学びへと向かうには、『**自前主義**』からの脱却がカギになるのではないのでしょうか。』(下井校長)

安心してチャレンジできる環境づくりを

現在の1年生から単位制に切り替わるため、昨年度は準備期間として5回に分け、職員全員が参加して課題の洗い出しを行う準備会議を開催。生徒が科目選択をする際の指針になるガイドブックも完成しました。

「大学や専門学校の授業や、学校外での継続的なボランティア活動、英検などの資格を卒業単位として認めるかどうかや、時間割中に生じる可能性のある空き時間の過ごし方などについての議論も引き続き進めています。単位制への移行で時間割に空き時間ができるので、その際の居場所づくりについては**実際に使う生徒たちにもデザイン**の段階から入ってもらい、意見を聞きながら考えていこうかなと思っていますところですよ。』(下井校長)

「課題は山積みだが走りながらやっている」という下井校長は、「その姿を生徒に見せることにも大きな意味がある」と強調します。

「僕らのような大人も絶え間なく試行錯誤しながら、失敗を恐れずに前に進んでいる。そんな姿を見せることで、生徒たちは『ここではやりたいことにチャレンジで

教育課程表 (令和4年度入学生適用)										
学校番号	教科	科目	標準	軽井沢 高等学校				全日制 課程		普通科
				1年		2年		3年		
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	合計
各 学 科 に 共 通 す る 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	2	2						2
		言語文化	2	2						2
		論理国語	4				4		4	0・4
		文学国語	4				4		4	0・4
		国語表現	4				4		4	0・4
		古典探究	4				4		4	0・4
	地 理 歴 史	地理総合	2			2				2
		地理探究	3						4	0・4
		歴史総合	2	2						2
		日本史探究	3				4		4	0・4
	公 民	公 共	2	2						2
		政治・経済	2				2		2	0・2
	数 学	数 学 I	3	3						3
		数 学 II	4				4		4	0・4
		数 学 III	3						4	0・4
		数 学 A	2				2		2	0・2
		数 学 B	2				2		2	0・2
		数 学 C	2						2	0・2
		※発展数学							2	0・2
	※実用数学							2	0・2	
	理 科	物理基礎	2			2		2	2	0・2
		物 理	4						4	0・4
		化学基礎	2	2						2
		化 学	4						4	0・4
		生物基礎	2			2		2	2	0・2
		生 物	4						4	0・4
		地学基礎	2			2		2	2	0・2
	保 健 体 育	体 育	7~8	3			3		2	8
		保 健	2	1			1			2
	芸 術	音 楽 I	2	2						0・2
美 術 I		2	2						0・2	
外 国 語	英語コミュニケーションI	3	3						3	
	英語コミュニケーションII	4				4		4	0・4	
	英語コミュニケーションIII	4						4	0・4	
	論理・表現I	2				2		2	0・2	
	論理・表現II	2						2	0・2	
	※中国語I					2			0・2	
※中国語II							2	0・2		
家 庭 情 報	家庭基礎	2	2						2	
	情 報 I	2	2						2	
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	商 業	ビジネス基礎	2~4			2			0・2	
		観光ビジネス	2~6			2		2	0・2	
		情報処理	2~6			4		4	0・4	
体 育	スポーツI	1~12				2		2	0・2・4	
	スポーツII	1~12				2		2	0・2・4	
	スポーツV	3~6				2		2	0・2・4	
音 楽	鑑賞研究	2~6				2		2	0・2	
	ソルフェージュ	3~9				2		2	0・2・4	
	演奏研究	2~6				2		2	0・2・4	
	器 楽	3~15				2		2	0・2・4	
美 術	鑑賞研究	2~6				2		2	0・2	
	ビジュアルデザイン	2~12				2		2	0・2・4	
	クラフトデザイン	2~12				2		2	0・2・4	
	情報メディアデザイン	2~12				2		2	0・2・4	
家 庭	絵画	2~12				2		2	0・2・4	
	フードデザイン	2~6				2		2	0・2	
	保 育 基 礎	2~6				2		2	0・2	
*軽高 キャリア プログラム	※未来		2						2	
	※未来探究					6		6	0・6・12	
	※デュアル							6	0・6	
	※ベーシックI							2	0・2	
	※ベーシックII							2	0・2	
各教科・科目の単位数計				28	0	8	20	4	24	84
[総合的な探究の時間]			3~6		1		1		1	3
ホームルーム活動			3		1		1		1	3

注1 *印は学校設定教科、※印は学校設定科目

注2「総合的な探究の時間」は、実施時間数を1750分(50分×35回)を1単位として換算した単位数を記載

きるんだ』『失敗してもいいんだ』と思えるはず。そうやって教職員も生徒たちも、みんながここは安全な場所だと思えること。お互いに認め合い、刺激を与え合い、言いたいことが言える安心できる環境であることを感じとってくれたらなと思っています。」(下井校長)

近隣の中学では、軽高への関心が高まってきているようです。過去数年は定員割れが続いていましたが、昨年度の入試では志願者が増え、前期も後期も定員割れせず、後期では志望変更期間前の当初の志願倍率が1.5倍となりました。

「これはかつてなかった数字で、1倍を超える形で定員を満したのには軽高への期待の表れだと受け止めています。ただし、定着するかどうかは今後の取組次第。緊張感を持ってやっていきたいですね。」(下井校長)

一律一斉の輪切りのような教育では、生徒が持つ潜在的なパワーを削いでしま

地域の企業や大学、地元の方々や保護者を組織化し、探究の伴走者を増やす、「自前主義」からの脱却がカギ



「未来」の授業で演劇的手法を活用したワークショップを体験している様子

いかねません。単位制によって一人ひとりを手厚く支援していく環境で、それぞれが自分のペースで伸び伸びと成長している場所になることが期待されます。

軽高の改革はこれからが正念場です

が、一層の少子化によって学校の存続自体が難しくなる中、自前主義を脱却した取組は全国的なロールモデルになっていくでしょう。

記事で紹介した
実証事業の詳細はこちら

事業者名:株式会社すららネット

公式サイト:<https://surala.jp/>



事業者名:ライフイズテック株式会社

公式サイト:<https://lifeistech-lesson.jp/>



事業者名:株式会社 Inspire High

公式サイト:<https://www.inspirehigh.com/>



Vol. 23

長野県軽井沢高等学校

1943年に設立された、軽井沢町で唯一の公立高校。2022年より、学年の枠を取り払った普通科単位制への移行を実現。1年生を「自己探究」、2年生を「地域探究」、3年生を「課題探究」と定め、国際文化親善観光都市である軽井沢町のすべてを学びのフィールドとして、生徒たちが、のびのびと自由に、自らの興味関心や可能性をとことん追究できる環境と教育を構築を目指す。

1人1台端末と様々なEdTechを活用した新しい学び方はこちら



未来の教室ってなに? 経済産業省の有識者会議「『未来の教室』とEdTech研究会」では、新しい学習指導要領にもとづき2020年代に実現したい「今を前提にしない学びの姿」を、「未来の教室ビジョン」にまとめました。その議論の内容は、ウェブサイト「『未来の教室』の目指す姿」をご覧ください。



「未来の教室」通信

発行: 経済産業省 商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室 Tel: 03-3580-3922

Facebook: <https://www.facebook.com/METI.learninginnovation/>

公式サイト: <https://www.learning-innovation.go.jp/>

未来の教室 検索

記事の
定期配信は
こちら

